

## 平成31年度 東京都立葛飾盲学校 学校経営報告

校長 田島 忍

## I 今年度の取組と自己評価

前年度に引き続き、「自立と自律を目指して～一人一人の可能性を広げ、主体性を高める学校～」を「目指す学校」として掲げた。教職員一人一人が自己の職責を自覚し、視覚障害教育の専門性に基づく指導とその維持・向上を図るとともに、教育活動をはじめとする学校運営全般に組織的・計画的に取り組む、以下の成果が得られた。

## 1 教育活動への取組と自己評価

## (1) 幼児・児童・生徒を確かに育てるために

ア 幼児・児童・生徒理解 —— 指導のためのR-PDCAサイクルの確実な循環

- ① 幼児・児童・生徒のアセスメントを年1回以上実施し、個別指導計画や年間指導計画（自立活動も含む）などの諸計画の充実を図りながら、日々の指導に取り組むことができた。
- ② 各学期当初を中心に教室環境の整備を行うとともに、安全点検や校内美化を随時行い、安全面の維持や実態の変化への適応を図ることができた。
- ③ 週ごとの指導計画、寄宿舎職務計画の作成と評価を通して、成果と課題を踏まえた計画や手だての修正などを随時行い、指導の一層の充実を図ることができた。
- ④ 学校生活支援シート、個別指導計画の作成と評価において、保護者との十分な連携により共通理解を深めることができた。
- ⑤ 年度末には、幼児・児童・生徒に関する情報を確実に引き継げるよう、担任・担当者間の引継ぎを2回以上実施し、次年度への指導の一貫性や連続性を確保することができた。

イ 学習指導 —— 指導内容・方法の工夫と、到達点に分かる指導

- ① 幼児・児童・生徒が成果を実感できるような指導を行うとともに、オリンピック・パラリンピック教育などの今日的な対応も充実させ、学習活動を推進することができた。
- ② 幼児・児童・生徒の課題に応じた教材・教具の活用、自作教材の作成と開発に努め、全ての教員が、各1点以上の校内学習コンテンツを作成することができた。
- ③ 適切な援助依頼の方法の習得と関連して、様々な困難やストレスの対処方法を身に付けるための教育（SOSの出し方に関する教育）を発達段階に応じて行った。
- ④ 校内読書コンクール、ひらがな・点字・漢字検定などに多くの児童・生徒が取り組んだ。また、外部の検定・大会などにも挑戦し、それぞれ成果を上げることができた。
- ⑤ 授業参観には、多くの保護者（年5日・延べ89家庭）が来校された。幼児・児童・生徒の取組や実態について御覧いただき、共通理解を深めることができた。

ウ 生活指導 —— 安全・安心の確保と、気持ちに寄り添った健全育成

- ① 児童・生徒間のトラブルはあったが、学校いじめ対策委員会において生活指導部、各学部教員、寄宿舎指導員が指導の方向性を確認し、連携して解決に導くことができた。
- ② 安全教育プログラムの内容を踏まえて、月1回及び随時の安全指導を行うとともに、セーフティ教室を通して、犯罪被害に遭わないための具体的な行動の習得を図ることができた。
- ③ 一泊二日宿泊防災訓練では、新たに小学部教員も宿泊するとともに、地域の関係者2名が初めて参加した。また、SNSを運用し、保護者等への情報提供を適時行うことができた。
- ④ 白杖を用いた歩行指導、一人通学の指導、又はその前段階の指導を、一人一人の実態や通学方法に応じて行うことができた。また、スクールバスを安全に運行することができた。
- ⑤ 総合的な体力・健康づくり、食育を推進した。また、保護者との連携のもと、食物アレルギー等への具体的対応を、組織的かつ確実に取り組むことができた。
- ⑥ 医療的ケア安全委員会を基盤として、教職員が基礎・基本から学ぶための校内研修を行うとともに、保護者、指導医、学校看護師等との連携による実施体制づくりを進めた。

## エ 進路指導 —— 体験の積み重ねと、将来のイメージづくり

- ① キャリア教育の充実を図り、中学部で進路学習会・見学会、校内就業体験を行うとともに、3年生が新たに実施した校外就業体験を通して、将来のイメージをつくることができた。
- ② 保護者への情報提供を進めるため、本校卒業生の保護者を講師とする進路講演会を実施し、児童・生徒の盲学校卒業後の生活を考え、見通しをもつための機会とすることができた。

## オ 特別活動 —— 活動・体験内容の工夫と、継続的な関わり合い

- ① 各種学校行事（事前・事後学習を含む）を計画的かつ円滑に実施し、清新な気持ちや集団活動の喜びを味わうとともに、連帯感を深めることができた。
- ② 葛飾区立小菅東保育園、東綾瀬小学校、青葉中学校との交流及び共同学習、南綾瀬地区センターまつりへの参加などを通して、交流の楽しさと自己有用感を味わうことができた。
- ③ 中学部では、スポーツ部で年20回、芸術部で年10回の活動を行うとともに、関東地区及び東京都の各種大会参加を通して、生涯学習、生涯スポーツへの意欲を育むことができた。

## カ 寄宿舎における指導 —— 集団活動の充実と、生活技術の向上

- ① 学部や家庭との連携のもと、基本的な生活習慣の習得と確立を図るとともに、異年齢集団での遊び活動や舎生会活動の経験を通して、自立心を育成することができた。
- ② 地域施設の利用（年13回）や寄宿舎祭（189名参加）を通して、地域との交流を充実させるとともに、保護者参観・面談等を通して共通理解を深めることができた。

## (2) 地域と共に伸びゆくために

### ア 理解充実と情報発信 —— 地域との更なる連携と、教育活動の積極的な公表

- ① 保育園、小・中学校との交流及び共同学習、地域施設の利用、副籍制度の活用などを通して、視覚障害児・者、視覚障害教育に関する理解の充実を図ることができた。
- ② 学校Webサイト（ホームページ）の更新（50回）、学校公開（60名）、ボランティア養成講座（12名）を通して、地域等への情報発信と理解充実を図ることができた。
- ③ 視覚障害児・者、視覚障害教育に関する各種調査への協力や、視覚障害教育を専攻する学生等の視察などを積極的に受け入れ、盲学校への関心をより高めることに寄与した。

### イ センターの機能の発揮 —— ネットワークの活用と、専門性の還元

- ① 乳幼児教育相談、見え方の相談会をはじめとする相談対応では、当該の乳幼児・児童・生徒及びその保護者に対して、気持ちに寄り添いつつ、丁寧な助言・支援を行った。
- ② 関係機関への訪問を行うとともに、小・中学校や他障害種別の特別支援学校への支援では、丁寧な助言・支援を行い、視覚障害教育の高い専門性を還元することができた。

## (3) 教職員の資質向上のために

### ア 学校運営と人材育成 —— 教育活動のより強固な基盤づくりと、教職員相互の高め合い

- ① <幼児・児童・生徒理解>学校いじめ対策委員会を通じて教職員が連携し、いじめを未然防止するとともに、体罰防止研修を2回実施し、人権尊重の理念に基づく指導に反映させた。
- ② <教育課程>教育課程検討委員会を通じて、教務部委員と各学部主任がキャリア教育推進の必要性を共通認識し、学校全体としての指導の段階表を作成することができた。
- ③ <学習・生活・進路指導、特別活動>研究授業と評価、各種マニュアル・計画の改訂、各種委員会・研修等を通して、教職員の知識・技能を高め、実際の指導に反映させた。
- ④ <寄宿舎における指導>学部とのケース会（学期1回）等を通じて学級担任・学部と緊密に連携し、相互の状況や課題を共有することで、指導の効果を高めることができた。
- ⑤ <教職員としての基本>服務事故防止研修、個人情報保護に関する研修（各年3回）などを通して、全教職員が服務規律の厳正に十分留意して職務を遂行することができた。
- ⑥ <学校資産の効果的な活用>予算や学校徴収金を適正かつ効果的に執行・活用するとともに、日々の検針・点検を通して、施設・設備の保全と環境保護・省エネルギーに取り組んだ。
- ⑦ <教員の専門性向上>本校初の全国公開研究発表会の開催、各種校内研修会・研究会の実施、免許法認定講習の受講などを教職員の専門性向上につなげることができた。
- ⑧ <教職員のライフ・ワーク・バランス>定時退庁日を11日、学校閉庁日を5日設定したが、日常的な定時外在校時間の縮減については、継続的に取り組んでいく必要がある。

- ⑨ <学校評価>学校運営連絡協議会での意見、児童・生徒からの聞き取り、保護者対象のアンケートなどから、学校運営、教育活動等における成果と課題を把握することができた。

## 2 重点目標への取組と自己評価

(「項目」欄の番号・記号は、1の項番に対応する。)

(「評価」欄の凡例 … ◎：目標を超えて達成、○：おおむね達成、△：未達成)

項目	事項	目標(数値、時期等)	評価	実績	備考
(1) ア	① 自立活動の年間指導計画	年1回	○	同左	
	② 安全点検、校内美化(本校舎)	月1回(年11回)、年15回	○	臨時休校のため14回	
	③ 週ごとの指導計画、寄宿舎職務計画の作成と評価	週1回	○	同左	
	④ 個別指導計画の充実	学期1回(年3回)	○	同左	
	⑤ 引継事項の明確化と確実な引継	年度末2回以上	○	同左	
イ	① 外国語活動の新規実施(小3・小4)	年15単位時間ほか	○	同左	
	「特別の教科 道徳」に向けた指導内容の蓄積	通年	○	地区公開講座実施	
	日本の伝統・文化教育、環境教育の推進	通年	○	書道等	
	オリンピック・パラリンピック教育の推進	年35単位時間	○	ロービジョンフットサル等	
	芸術教育の推進	通年	○	美術展に応募	
	主権者教育の推進	通年	○	葛飾区選管と連携	
	タブレット端末の活用の推進	通年	○	アプリの活用も含む	
	② 自作教材(学習コンテンツ)の作成と開発	全員1点以上	○	同左	
	③ SOSの出し方に関する教育	年1単位時間又は日常の指導	○	各機会にて実施	
	④ 校内読書コンクール(読書王)	7~1月・延べ150冊	△	同左・延べ126冊	
	校内ひらがな・点字・漢字検定	学期1回(年3回)	○	同左	
	視覚障害者珠算検定	年1回	○	同左(2名受験)	
	日本漢字能力検定、実用英語技能検定	各年1回(実施3回中)	△	英語実施なし	
作品展(詩、短歌、俳句、美術、書道等)	随時	○	地区、区、都へ出展		
⑤ 授業参観	年6日・延べ90家庭	△	年5日・延べ89家庭		
ウ	① いじめ・体罰の状況把握	年2回・発生0件	○	同左	
	② セーフティ教室	年1回	○	同左	
	③ 一泊二日宿泊防災訓練	年1回・中学部全員	◎	地域の方2名初参加	
	SNSの運用(防災や安全に関する情報提供)	4月運用開始	◎	修学旅行でも運用	
	④ 白杖歩行指導、一人通学指導	随時	○	自立活動、通学練習	
	⑤ 体力調査	小1回、中1回	○	同左	
	食材体験	月1回(年11回)	○	臨時休校のため10回	
	郷土料理献立	年10回	○	同左	
	特別食の提供	随時、関連事故発生0件	○	同左	
	⑥ 医療的ケアの実施	随時、関連事故発生0件	○	立ち上げ準備、研修等	
エ	① 校内就業体験(中学部)	年1回	○	同左	
	校外就業体験(中3)	1名につき年1回	○	同左	
	生徒進路学習会、進路先見学会(学年別)	各年1回	○	同左	
	② 保護者向け進路講演会	年1回	○	同左	
オ	① 儀式、文化、集団宿泊的行事の円滑な実施	通年	○	いずれも適正に実施	
	② 保育園、小・中学校との交流及び共同学習	幼6回、小30回、中2回	○	4回、33回、2回	
	南綾瀬地区センターまつりへの参加	年1回(10月)	○	同左	
	地域の高齢者施設利用者との交流	年1回	○	同左	
	東京都公立学校バラスポーツ交流大会への参加	年1回(7月)	○	同左	
	③ スポーツ部、芸術部	年20回、年10回	○	20回、10回	
	関東地区盲学校水泳大会、陸上競技大会	各年1回(9月、11月)	○	水泳は8月	
	東京都障害者スポーツ大会	年1回	○	同左	
カ	① 遊び活動	年10回	△	9回	
	舎生会活動(代表者会)	年15回	◎	18回	
	② 夏の開舎	夏季休業日中2回	○	同左	
	地域との交流(児童館、買い物、公園等)	年10回	◎	13回	
	寄宿舎祭	年1回(12月)・180名	◎	同左・189名	
	保護者参観	年7日(11月)	◎	9日	

項目	事項	目標(数値、時期等)	評価	実績	備考		
(2) ア	①	保育園、小・中学校との交流及び共同学習	幼6回、小30回、中2回	○	4回、33回、2回	(1)オ②再掲	
		南綾瀬地区センターまつりへの参加	年1回(10月)	○	同左	(1)オ②再掲	
		地域との交流(児童館、買い物、公園等)	年10回	◎	13回	(1)カ②再掲	
		副籍制度の活用	通年(15名)	◎	27名		
	②	学校Webサイト(ホームページ)の更新	年50回	○	50回		
		学校公開	年2回・50名	◎	同左・60名		
		ボランティア養成講座	年1回(7月)・10名	◎	同左・12名		
	③	外部機関からの視察・協力依頼への対応	随時	○	5回程度		
	イ	①	乳幼児教育相談	年60回・延べ120名	◎	79回・延べ167名	
			見え方の相談会(足立区、江東区、葛飾区)	各区年1回・計80名	◎	同左・計87名	
②		区教育委員会、医療、療育等関係機関の訪問	年40回	◎	45回		
		小・中学校への支援	年10回	◎	15回		
		他障害種別の特別支援学校への支援	年5回	◎	6回		
	「教科書デジタルデータ活用」調査研究の協力	随時(要請に応じて)	—	要請なし			
(3) ア	①	学校いじめ対策委員会、いじめ未然防止研修	年3回、年1回	○	同左		
		体罰防止研修	年2回	○	同左		
	②	教育課程検討委員会	6回	△	5回		
	③	全教員の研究授業と評価	年1回以上	○	同左	学習指導	
		学校危機管理マニュアルの改訂	年1回	○	同左	生活指導	
		防犯訓練	年1回	○	同左	〃	
		防災教育推進委員会	年2回	○	臨時休校のため1回	〃	
		一泊二日宿泊防災訓練に係る連携・協力等の計画	年1回	○	同左	〃	
		学校保健委員会、保健研修	年3回、年2回	○	臨時休校のため2回・同左	〃	
		食物アレルギー対応委員会、アレルギー対応研修	年3回、年1回	○	同左	〃	
		摂食指導講演会	年1回	○	同左	〃	
		教員向け進路研修会、見学会	年2回	△	見学会は未実施	進路指導	
		都立文京盲学校との進路連絡会	年1回	○	同左	〃	
	学校間交流に係る事前打合せ	学部単位の交流あたり1回	○	同左	特別活動		
	④	寄宿舎と学級担任・学部とのケース会	学期1回	○	同左		
	⑤	服務事故防止研修、個人情報の保護に関する研修	各年2回	◎	各年3回		
		ラインによる意思決定	通年	○	同左		
		メンタルヘルス講習会	年1回	○	同左		
	⑥	予算調整会議による執行管理(公費、私費)	年5回	○	4回(適正回数)		
		学校予算の効率的・効果的な執行	自律経営推進予算の95%	○	同左		
		予算全般及び就学奨励費に関する研修	年2回	○	1回(適正回数)		
		光熱水費に係るメーターの検針	毎日	○	同左		
		不要箇所の消灯、ガスチェック等	毎日	○	同左、ガス該当なし		
	⑦	新転任者研修会	年20回	○	同左		
		グループ研究会	年10回、講師等招へい1回	○	同左		
		専門研修	年5回	○	同左		
		点字学習会	年5回	○	同左		
		公開研究発表会(仮称)	年1回(1月)、50名	△	34名(68%)		
		特別支援学校教諭免許状(視覚障害領域)	取得済70%、未受講0%	◎	78%、0%		
	⑧	教職員の在校時間の適切な把握	「定時外在校80時間超/月」20名	△	延べ47名(2月まで)		
		定時退庁日の設定	年6日	◎	11日		
		学校閉庁日の設定(長期休業日中等)	年5日(8月、10月)	○	同左		
	⑨	児童・生徒評価(評価委員による聞き取り)	満足度90%	◎	93%		
		保護者評価(アンケート)	回収率90%、満足度80%	○	89%、90%		

## II 次年度以降の課題と対応策

### 1 幼児・児童・生徒一人一人に対する指導の充実

#### (1) 教育的ニーズの把握

見え方、発達段階をはじめ、視覚認知、発達障害等に関する理解を深めるとともに、アセスメントを適切に行いながら、個別指導計画と日々の指導の充実を図る。

## **(2) 個に応じた学習指導**

幼児・児童・生徒一人一人の課題に応じた「楽しく学べる」「よく分かる」「しっかり身に付く」学習指導の推進により学力向上を図るため、指導内容・指導方法を工夫していく。

## **(3) 安全・安心な学校づくり**

医療的ケアを安全かつ適切に実施するために、保護者や医療関係者等との緊密な連携を図る。また、歯・口の健康づくり推進校事業における成果をまとめ、幼児・児童・生徒に還元していく。

## **(4) 進路に関する体験拡充と情報提供**

キャリア教育を推進し、校外就業体験等を充実させ、将来のイメージづくりを支援するとともに、全校保護者会の日に進路講演会を設定することで、保護者への情報提供を効率的に行う。

## **(5) 多様な経験を積み上げる特別活動**

保育園、小・中学校との交流及び共同学習を継続するとともに、地域の高齢者との交流、部活動、各種大会等への参加を通して、自己有用感や生涯学習への意欲を育てていく。

## **(6) 寄宿舎における指導**

集団生活を通して寄宿舎生の社会性や協調性の伸長を図り、望ましい人格形成につなげていく。また、健康・安全への意識を高めながら生活技術を向上させ、自立心を育成していく。

## **2 地域との連携・協力、情報発信の充実**

### **(1) 視覚障害に関する理解推進と情報発信**

理解推進に資する外部からの視察・協力依頼を積極的に受け入れるとともに、学校Webサイト（ホームページ）の定期的な更新を行い、本校の取組や情報を適時、広く発信していく。

### **(2) 視覚障害教育のセンター的機能の発揮**

乳幼児教育相談、見え方の相談会等において丁寧な助言・支援を継続し、地域におけるインクルーシブ教育システムの構築に寄与していく。また、眼科医等医療関係者との連携も深めていく。

## **3 教職員の資質向上と組織的な学校運営の充実**

### **(1) 研究成果の公表**

これまで蓄積してきた校内研究の成果を公表するため、令和元年度に全国公開研究発表会を開催したが、令和2年度は研究実践報告集の編集・発行により、引き続き研究成果を公表していく。

### **(2) 教職員のライフ・ワーク・バランスの推進**

教職員の定時外在校時間を適切に把握するとともに、定時退庁日、定時退庁促進ウィーク、学校閉庁日を設定し、意識改革を継続する。また併せて、校務全般の合理化と縮減を進めていく。